

2 調査日程

2.1 第2回クリーンアップ調査

福井県における第2回クリーンアップ調査の実施日を表2に示す。共通調査では、一つの調査枠の設置とゴミの回収に約半日、ゴミの分類に半日～1日程度を要した。また、独自調査でのゴミの回収には、各地区で約2時間から4時間を要した。

表2 福井県における第2回クリーンアップ調査の実施日

調査日	11/27 (火)	11/28 (水)	11/29 (木)	11/30 (金)	12/1 (土)	12/2 (日)	12/3 (月)	12/4 (火)	12/5 (水)	12/9 (日)
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	
共通調査										
調査枠の設定・回収	1	2	4	5	6	3				
漂着ゴミの分類										
独自調査										
安島地区										
梶地区										
米ヶ脇地区										
崎地区										
漂着ゴミの分類										

注：表中の番号は調査枠の番号を示す(図1参照)。

3 調査体制

第2回クリーンアップ調査の調査体制は次の通りであった。

		組織	最大人数 (人/日)	のべ人数 (人日)
共通調査	調査指揮	日本エヌ・ユー・エス(株)	3人	15名
	調査協力	(株)環境総合テクノス	2人	10名
	作業員	坂井市シルバー人材センター	6人	18名
		地元地区住民	1人	3名
独自調査	調査指揮	日本エヌ・ユー・エス(株)	5人	14名
	調査協力	(株)環境総合テクノス	2人	8名
	重機の運行	(株)高橋組	7人	11名
	作業員	安島地区自治会	164人	164名
		米ヶ脇地区自治会	15人	15名
		梶地区自治会	80人	80名
		崎地区自治会	46人	46名

4 調査結果

4.1 共通調査

4.1.1 種類別集計結果

集計方法

海岸方向：調査枠毎に回収した漂着ゴミを種類別に集計した。各調査地点によって、回収面積が異なるため、100 m²（10 m×10 m）に換算して結果を示した。

枠名	験潮所	水族館	二の浜	ナホトカの碑東側	福良の浜	製塩所 廃跡
調査面積 (m ²)	95	100	124	135	116	56

内陸方向：海岸線から内陸方向へ①の中の2 m枠（A～E）と②枠の漂着ゴミを種類別に集計した。各枠によって、回収面積が異なるため、4 m²（2 m×2 m）に換算して結果を示した。

枠名	調査面積 (m ²)
②	75
E	20
D	20
C	24
B	24
A	23

(1) 重量での集計結果（海岸方向）

海岸方向における漂着ゴミの分類結果（第2回）を図6、表3に示す。各調査枠での漂着ゴミの重量は「福良の浜」で最も多く、「ナホトカの碑東側」で最も少ない。「福良の浜」ではプラスチック類およびその他の人工物が占める割合が高かった。

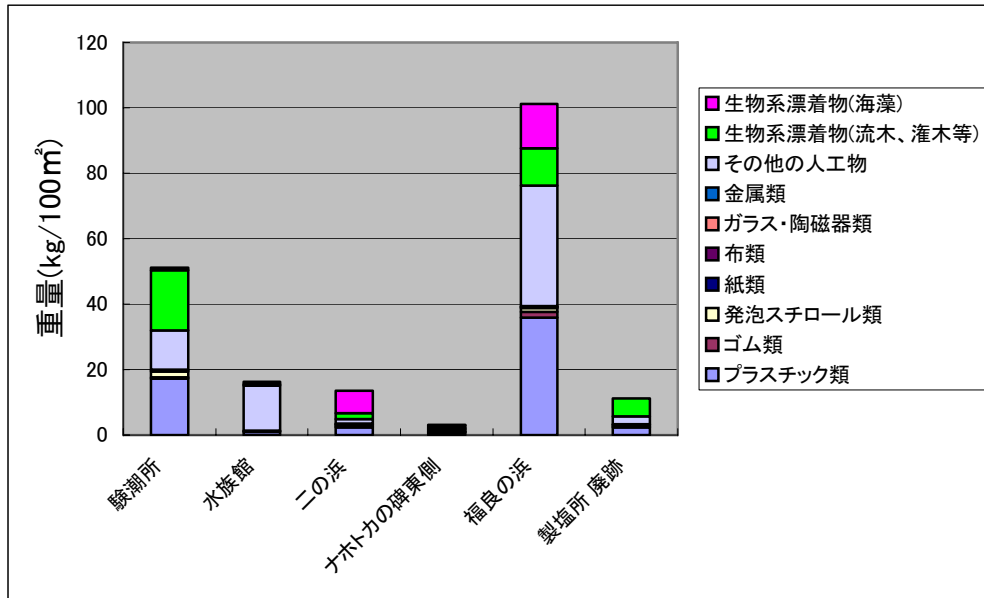


図6 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（海岸方向：第2回）

表3 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（海岸方向：第2回）

大分類	名称	験潮所	水族館	二の浜	ナホトカの碑東側	福良の浜	製塩所 廃跡
1	プラスチック類	17.30	1.03	2.35	0.70	35.88	2.26
2	ゴム類	0.40		0.35	0.26	1.80	0.46
3	発泡スチロール類	1.76	0.13	0.37	0.11	1.20	0.44
4	紙類	0.01		0.04		0.04	
5	布類	0.27	0.16	0.02		0.14	
6	ガラス・陶磁器類	0.24	0.08	0.19	0.02	0.11	0.23
7	金属類	0.06	0.00	0.14	0.71	0.29	
8	その他の人工物	11.90	13.80	1.42	0.42	36.84	2.25
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	18.47	0.21	1.75	0.68	11.38	5.46
10	生物系漂着物(海藻)	0.67	0.93	6.85	0.20	13.44	0.03
重量計(kg/100m ²)		51.09	16.34	13.48	3.10	101.14	11.14

調査面積 (m ²)	95	100	124	135	116	56
------------------------	----	-----	-----	-----	-----	----

注1) 表中、重量の「0.00」は、重量が0.005kg未満を示す。

前回（第1回）の海岸方向における漂着ゴミの分類結果を図7、表4に示す。各調査枠での漂着ゴミの重量は「験潮所」で最も多く、「ナホトカの碑東側」で最も少ない。ゴミの量が多い地点では流木、灌木等の占める割合が高かった。

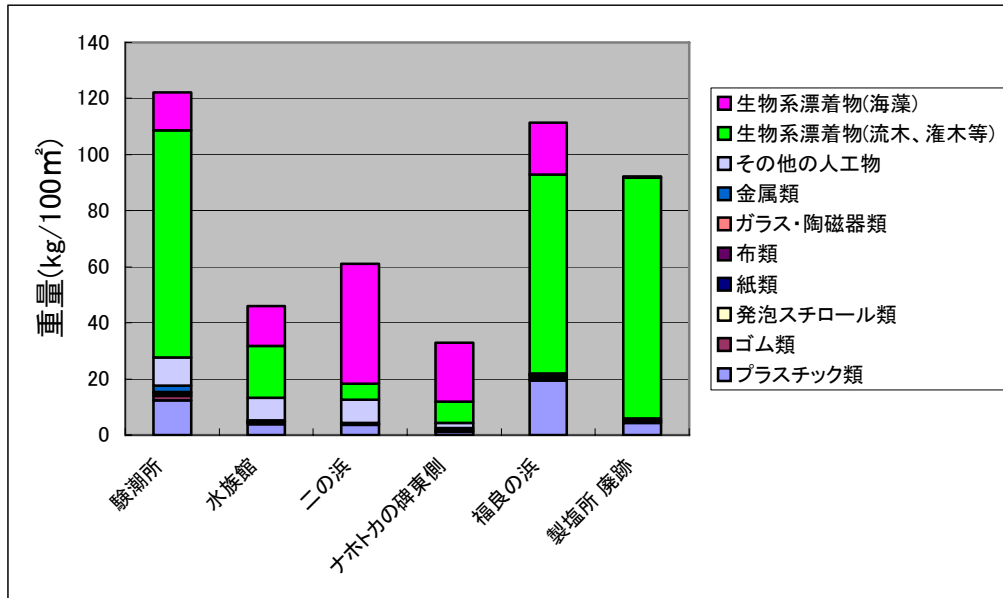


図7 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（海岸方向：第1回）

表4 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（海岸方向：第1回）

大分類	名称	験潮所	水族館	二の浜	ナホトカの碑東側	福良の浜	製塩所 廃跡
1	プラスチック類	12.34	3.78	3.56	1.07	19.36	4.31
2	ゴム類	1.66	0.60	0.12		0.82	0.28
3	発泡スチロール類	0.85	0.28	0.19	0.54	0.87	0.55
4	紙類	0.05	0.04	0.21	0.01	0.06	
5	布類	0.03		0.20		0.25	0.07
6	ガラス・陶磁器類	0.47	0.30	0.03	0.95	0.33	0.72
7	金属類	2.24	0.21	0.03	0.05	0.03	0.05
8	その他の人工物	10.13	8.08	8.15	1.79	0.19	
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	80.77	18.61	5.83	7.40	70.94	85.75
10	生物系漂着物(海藻)	13.61	14.06	42.70	21.13	18.49	0.52
重量 計(kg/100m²)		122.16	45.95	61.02	32.94	111.32	92.26

調査面積 (m²)	95	100	124	135	116	56
-----------	----	-----	-----	-----	-----	----

注1) 表中、重量の「0.00」は、重量が0.005kg未満を示す。

(2) 重量での集計結果（内陸方向）

内陸方向における漂着ゴミの分類結果（第2回）を図8、表5に示す。内陸方向の漂着ゴミの重量は汀線より一番遠い「②」枠で最も多く、汀線から4～6mの「C」枠で最も少ない。汀線の近くでは海藻が、離れるに従って、プラスチック類や流木等が増加傾向にあった。

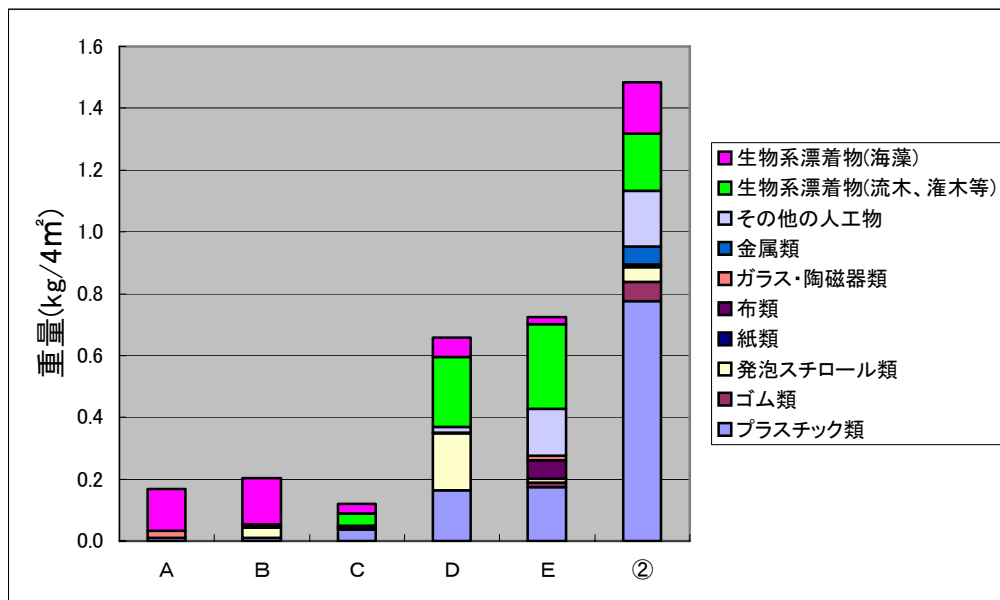


図8 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（内陸方向：第2回）

表5 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（内陸方向：第2回）

大分類	名称	A	B	C	D	E	②
1	プラスチック類	0.010	0.011	0.037	0.165	0.174	0.776
2	ゴム類	0.000				0.016	0.063
3	発泡スチロール類		0.033	0.004	0.183	0.012	0.047
4	紙類						0.002
5	布類					0.059	
6	ガラス・陶磁器類	0.022	0.002	0.004	0.002	0.016	0.006
7	金属類		0.000	0.003	0.000	0.000	0.058
8	その他の人工物			0.002	0.020	0.151	0.181
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	0.001	0.008	0.039	0.226	0.274	0.185
10	生物系漂着物(海藻)	0.134	0.150	0.032	0.062	0.023	0.165
重量計(kg/4m²)		0.168	0.204	0.121	0.658	0.725	1.483
調査面積(m²)		23	24	24	20	20	75

注1) 表中、重量の「0.000」は、重量が0.001kg未満を示す。

前回（第1回）の内陸方向における漂着ゴミの分類結果（第2回）を図9、表6に示す。内陸方向の漂着ゴミの重量は汀線寄りが多く、汀線から離れるに従って減少傾向にあった。汀線近くでは海藻が多い。

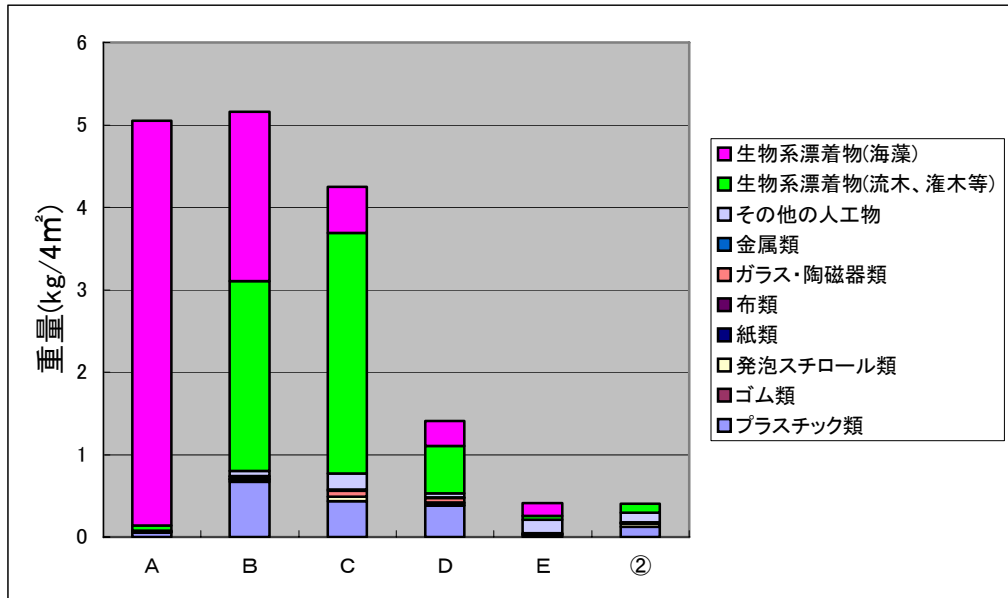


図9 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（内陸方向：第1回）

表6 漂着ゴミの材質別重量の集計結果（内陸方向：第1回）

大分類	名称	A	B	C	D	E	②
1	プラスチック類	0.051	0.671	0.432	0.378	0.024	0.125
2	ゴム類	0.013	0.025	0.005	0.009		
3	発泡スチロール類		0.006	0.055	0.022	0.010	0.037
4	紙類		0.005		0.013		0.010
5	布類	0.003	0.001	0.000			
6	ガラス・陶磁器類	0.004	0.024	0.072	0.053	0.004	0.009
7	金属類	0.001	0.005	0.014	0.005	0.006	0.000
8	その他の人工物	0.010	0.066	0.196	0.044	0.167	0.117
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	0.059	2.299	2.916	0.582	0.042	0.108
10	生物系漂着物(海藻)	4.907	2.055	0.561	0.304	0.157	
重量計(kg/4m²)		5.048	5.157	4.251	1.412	0.411	0.406
調査面積 (m²)		23	24	24	20	20	75

注1) 表中、重量の「0.000」は、重量が0.001kg未満を示す。

(3) 容量での集計結果（海岸方向）

海岸方向における漂着ゴミの分類結果（第2回）を図10、表7に示す。各調査枠での漂着ゴミの容量は「福良の浜」で最も多く、「ナホトカの碑東側」で最も少ない。「福良の浜」ではプラスチック類およびその他の人工物が占める割合が高かった。

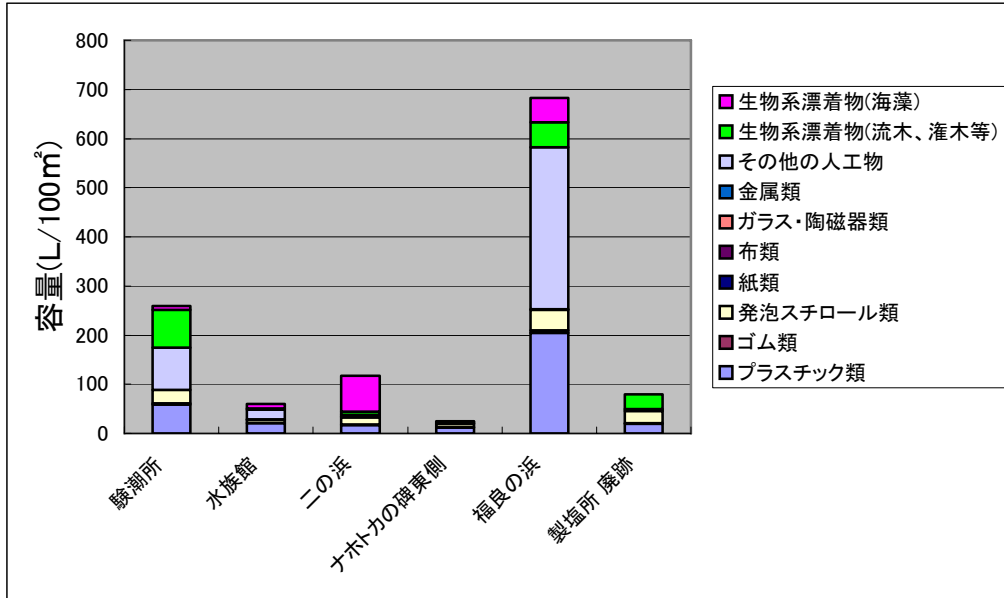


図10 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（海岸方向：第2回）

表7 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（海岸方向：第2回）

大分類	名称	験潮所	水族館	二の浜	ナホトカの碑東側	福良の浜	製塩所 廃跡
1	プラスチック類	58.3	21.0	17.0	12.3	204.9	19.3
2	ゴム類	2.8		0.7	1.1	5.4	1.4
3	発泡スチロール類	26.9	6.0	15.1	6.5	40.8	24.3
4	紙類	0.1		0.3		0.1	
5	布類	0.9	1.0	0.8		0.3	
6	ガラス・陶磁器類	0.1	0.0	0.2	0.0	0.2	0.3
7	金属類	0.1	0.0	0.7	0.2	0.9	
8	その他の人工物	84.8	20.4	3.2	1.1	330.4	4.1
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	77.8	1.8	6.1	2.0	49.7	29.9
10	生物系漂着物(海藻)	8.1	10.3	72.9	1.7	50.7	0.2
容量 計(L/100m ²)		259.8	60.4	116.9	25.0	683.4	79.5

調査面積 (m ²)	95	100	124	135	116	56
------------------------	----	-----	-----	-----	-----	----

注1) 表中、容量の「0.0」は、容量が0.05L未満を示す。

前回（第1回）の海岸方向における漂着ゴミの分類結果を図11、表8に示す。各調査枠での漂着ゴミの容量は「験潮所」で最も多く、「水族館」で最も少ない。ゴミの量が多い地点では流木、灌木、海藻等の生物系漂着物の占める割合が高かった。

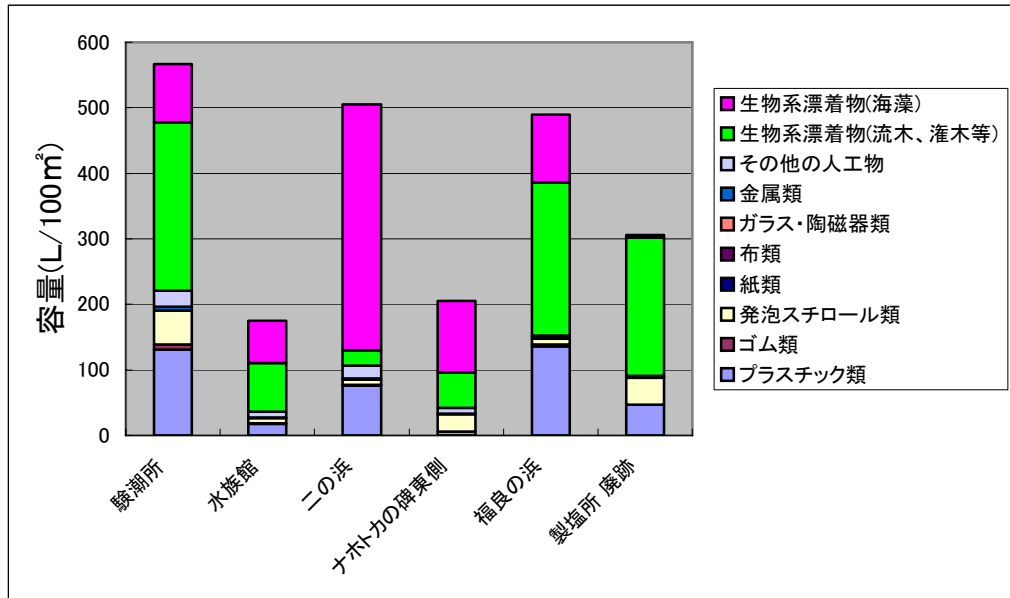


図 11 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（海岸方向：第1回）

表 8 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（海岸方向：第1回）

大分類	名称	験潮所	水族館	二の浜	ナホトカの碑東側	福良の浜	製塩所 廃跡
1	プラスチック類	131.4	17.5	76.0	6.2	135.7	46.5
2	ゴム類	7.5	1.0	1.0		3.0	0.5
3	発泡スチロール類	51.3	8.0	8.2	26.6	9.4	41.2
4	紙類	0.1	0.0	0.2	0.0	1.0	
5	布類	0.0		1.2		2.7	0.5
6	ガラス・陶磁器類	0.3	0.1	0.0	0.8	0.6	1.1
7	金属類	5.6	1.2	0.3	0.0	0.2	0.9
8	その他の人工物	24.9	8.8	19.4	8.0	0.5	
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	257.0	73.6	23.5	54.5	233.4	211.7
10	生物系漂着物(海藻)	88.6	65.0	375.8	108.9	103.5	3.6
容量 計(L/100m ²)		566.6	175.2	505.6	205.0	489.8	306.0

調査面積 (m ²)	95	100	124	135	116	56
------------------------	----	-----	-----	-----	-----	----

注1) 表中、容量の「0.0」は、容量が0.05L未満を示す。

(4) 容量での集計結果（内陸方向）

内陸方向における漂着ゴミの分類結果を図 12、表 9に示す。内陸方向の漂着ゴミの重量は汀線より一番遠い「②」枠で最も多く、汀線際の「A」枠で最も少ない。汀線の近くでは海藻が、離れるに従って、プラスチック類や流木、発泡スチロール等が増加傾向にあった。

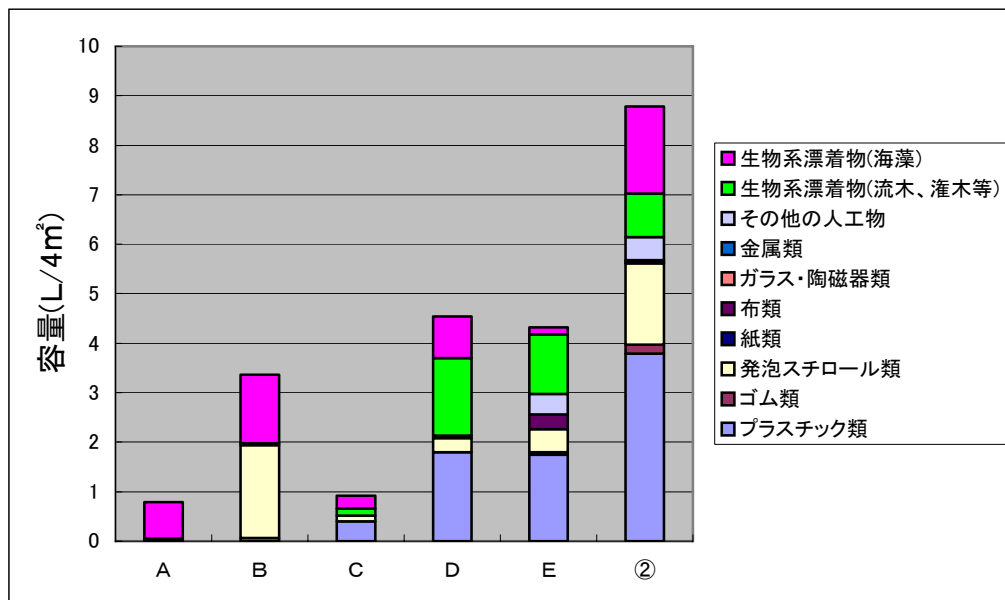


図 12 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（内陸方向：第 2 回）

表 9 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（内陸方向：第 2 回）

大分類	名称	A	B	C	D	E	②
1	プラスチック類	0.024	0.068	0.398	1.793	1.748	3.793
2	ゴム類	0.001				0.045	0.173
3	発泡スチロール類	0.005	1.872	0.114	0.295	0.467	1.649
4	紙類						0.016
5	布類				0.000	0.300	
6	ガラス・陶磁器類	0.017	0.001	0.001	0.000	0.006	0.008
7	金属類	0.000	0.001	0.003	0.000	0.001	0.044
8	その他の人工物			0.002	0.042	0.404	0.455
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	0.003	0.042	0.142	1.570	1.210	0.885
10	生物系漂着物(海藻)	0.743	1.383	0.263	0.846	0.134	1.760
容量 計(L/4m ²)		0.792	3.366	0.924	4.546	4.316	8.784
調査面積 (m ²)		23	24	24	20	20	75

注 1) 表中、容量の「0.000」は、容量が 0.001L 未満を示す。

前回（第1回）の内陸方向における漂着ゴミの分類結果を図13、表10に示す。内陸方向の漂着ゴミの容量は汀線寄りが多く、汀線から離れるに従って減少傾向にあった。汀線近くでは海藻が多い。

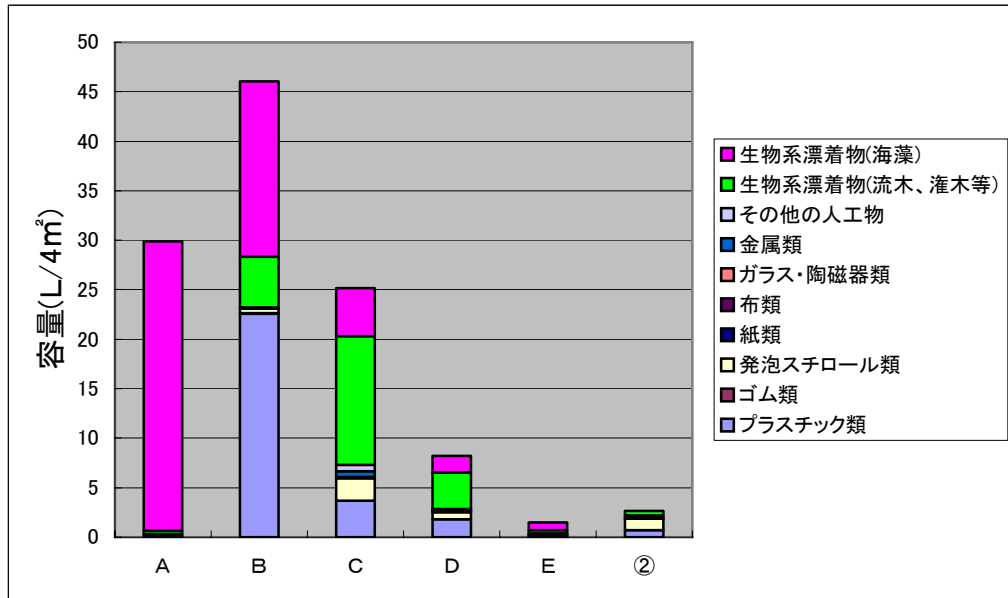


図13 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（内陸方向：第1回）

表10 漂着ゴミの材質別容量の集計結果（内陸方向：第1回）

大分類	名称	A	B	C	D	E	②
1	プラスチック類	0.250	22.578	3.667	1.833	0.084	0.684
2	ゴム類	0.012	0.083	0.005	0.004		
3	発泡スチロール類	0.037	0.404	2.275	0.663	0.130	1.222
4	紙類		0.012		0.181		0.003
5	布類	0.009	0.001	0.002	0.001		
6	ガラス・陶磁器類	0.001	0.026	0.117	0.047		0.011
7	金属類	0.001	0.003	0.591	0.051	0.055	0.000
8	その他の人工物	0.017	0.113	0.669	0.040	0.139	0.294
9	生物系漂着物(流木、灌木等)	0.348	5.091	13.011	3.684	0.280	0.459
10	生物系漂着物(海藻)	29.217	17.750	4.833	1.700	0.800	
容量計(L/4m ²)		29.891	46.060	25.170	8.202	1.488	2.673
調査面積(m ²)		23	24	24	20	20	75

注1) 表中、容量の「0.000」は、容量が0.001L未満を示す。

4.1.2 ラベル表記言語による国別集計結果

共通調査枠内のゴミを対象に、ラベルに言語が表記されているゴミについて、国別に個数を集計した。対象としたゴミは、飲料用ペットボトル、飲料用缶(アルミニウム缶及びスチール缶)、ライター、漁業用ブイである。なお、この分類は、ラベルに表記された言語により国別に分類したのであり、必ずしもゴミの発生した国と一致しないことに留意する必要がある。

飲料用ペットボトルについては、日本製が約4割を占めた(図14)。これら日本製のペットボトル・飲料用缶については今後、製造所固有の記号をもとに発生場所の推定を行う予定である。ライターは、表面の印字が消えているものが大半であり、印刷文字から国が特定できたライターは日本、中国、韓国、台湾、各々1~2個であった。印刷文字で判明できないものは底面記号やタンク形状等の指標で判断した。漁業用ブイについては、表記言語が不明なものが約6割を占めた。言語を特定できたものでは、中国、台湾、韓国で約4割を占めていた。

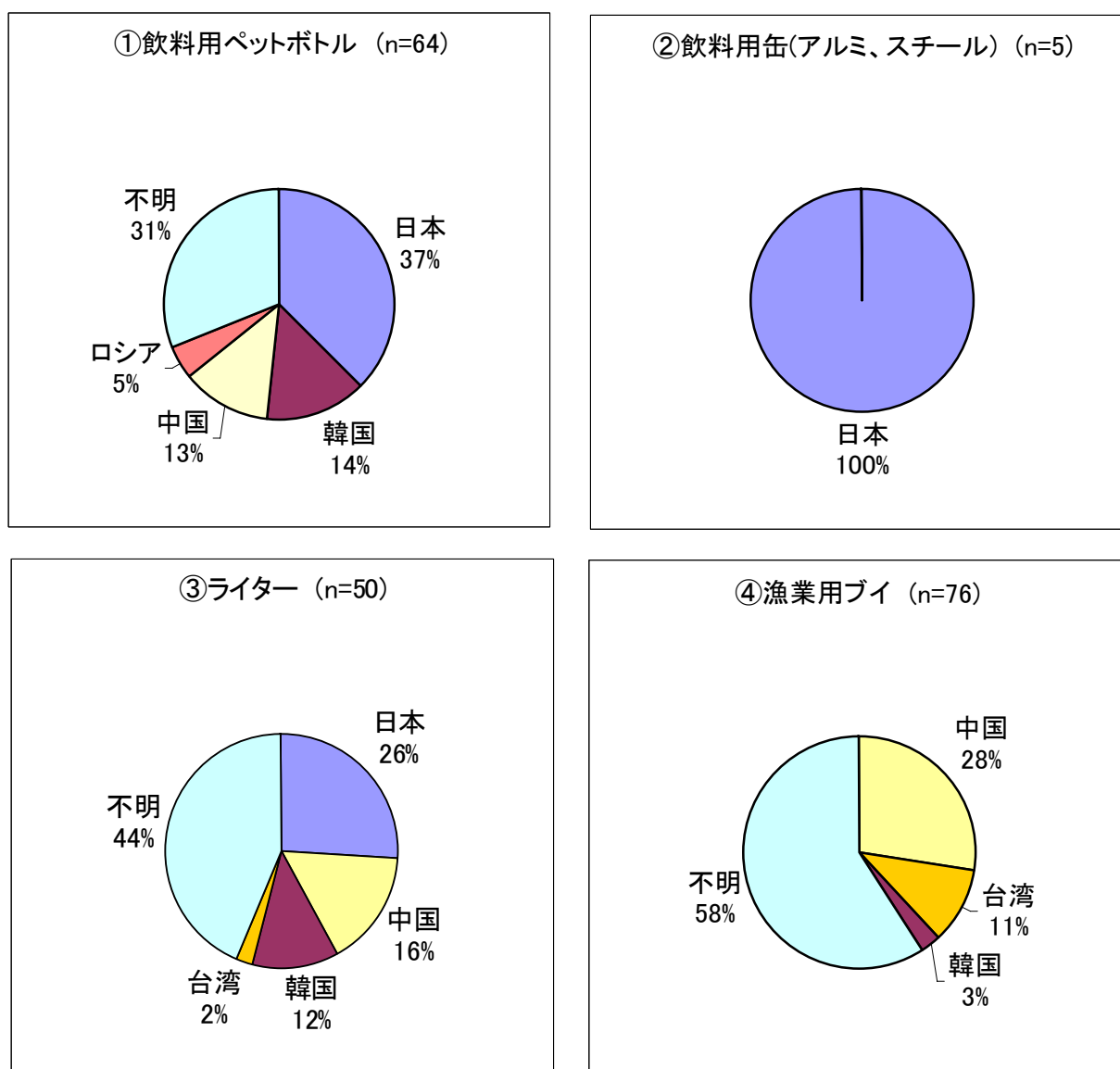


図14 ラベル表記言語による国別集計結果 (第2回)
(①飲料用ペットボトル、②飲料用缶、③ライター、④漁業用ブイ)

ちなみに第1回の結果をみると、飲料用ペットボトルについては、日本製が約8割を占めていた(図15)。飲料用ペットボトルに関しては、季節により国産と外国産の比率が異なる状況が伺われる。

ライターは、表面の印字が消えているものが大半であった。印刷文字から国が特定できたライターは約4分の1であった。漁業用ブイについては、中国・台湾が約7割を占めていた。

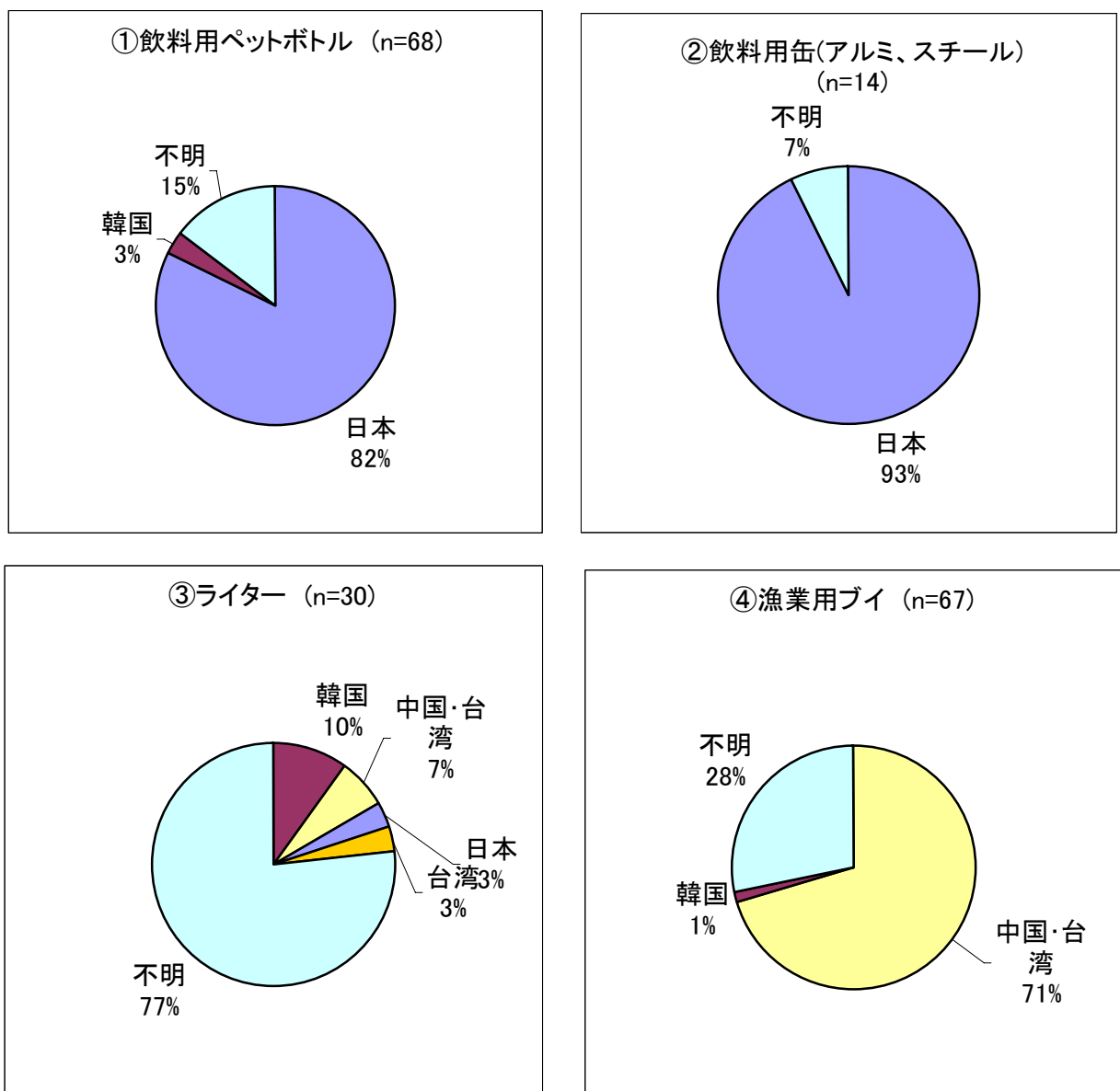


図15 ラベル表記言語による国別集計結果(第1回)
 (①飲料用ペットボトル、②飲料用缶、③ライター、④漁業用ブイ)

4.2 独自調査

(1) 回収

漂着ゴミの回収（第2回）は、基本的に人力で行った(表 11)。人力で回収できない大きな流木については、チェーンソーで切断して運搬した。漂着ゴミは回収時に以下の4つに分類し、土のう袋及び坂井市指定の45Lのゴミ袋に収納した。

トラック搭載型クレーン(ユニック)が浜の近くまで乗り入れることができた梶地区（岩脇）では、クレーンで流木・ドラム缶等を回収した。なお、海藻については、前回の検討会で「自然の力に任せた方がよい」、「今まで海藻をゴミとして扱ったことはない」とのご指摘を受け、全地区で、今後は回収しない方向となった。

- ・ 流木・木ぎれ・紙類
- ・ プラスチック・発泡スチロール・ペットボトル・ゴム等の人工物
- ・ 空き缶・空き瓶
- ・ スプレー缶

表 11 回収作業を実施した海岸の状況

地区名	地名	海岸線の長さ (m)	地区計	第1回	第2回
梶	岩脇	113.6	294.9	113.6	113.6
	松ヶ下	52.4		52.4	
	白浜	68.5		68.5	68.5
	長茶浜	20.5		20.5	20.5
	根保呂	39.8		39.8	39.8
崎	くらの間	66.5	1222.0	66.5	66.5
	横間	872.6		872.6	872.6
	七人穴	51.3		51.3	51.3
	田のしり	231.7		231.7	231.7
安島	中の間(東側)	288.4	751.8	288.4	288.4
	中の間(西側)	265.4		265.4	
	ながっそだ	50.7		50.7	
	すり鉢川の下	14.2		14.2	
	福良の浜	133.0		133.0	133.0
米ヶ脇	たのしり	130.7	241.6	130.7	130.7
	たのしり	74.5		74.5	74.5
	やかげ	36.3		36.3	36.3
計(m)			2510.2	2510.2	2127.5

(2) 運搬

調査対象の浜は海食崖が発達していることが多く、また重機も使用できないため、回収したゴミ(特に大きな流木)を運搬用のトラックまで搬出することが困難な状況にある。

第1回の独自調査では、海況の状態が比較的よい状況であったので、小型船舶を用いて浜

から漁港まで漂着ゴミを搬出し、漁港からトラックで処理施設に運搬した（図 16）。

今回は季節的に海況の状態が思わしくないことが予測されたため、小型船舶での運搬は計画されなかった。

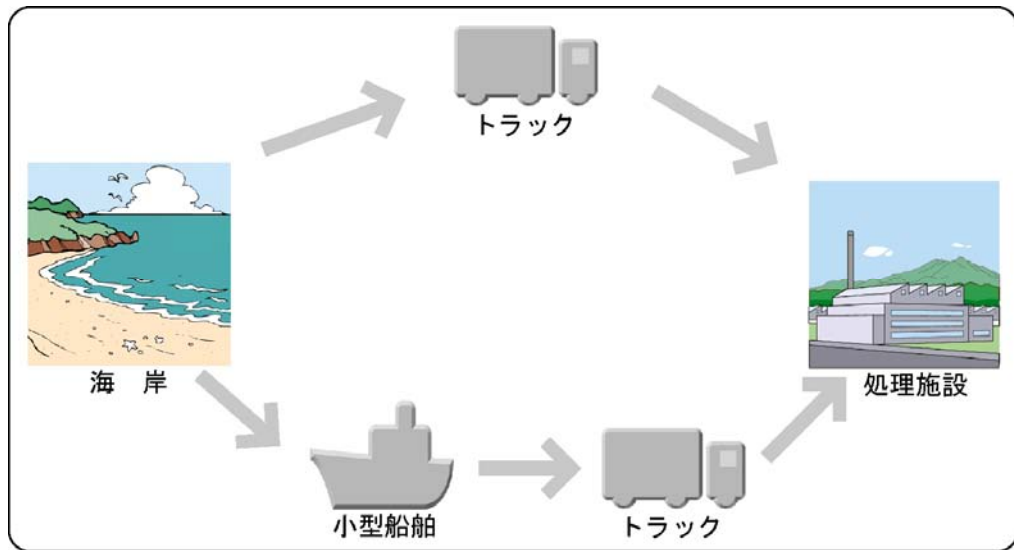


図 16 漂着ゴミの運搬方法の模式図

(3) 回収結果

独自調査において回収した漂着ゴミの重量を表 12に示す。

なお、不法投棄と思われる冷蔵庫、テレビ等の粗大ゴミの処分に関しては、坂井市生活環境部に協力していただいた。（第 2 回産業廃棄物に関しては未集計）

表 12 独自調査での漂着ゴミの回収結果

第2回

種別	梶	崎	安島	米ヶ脇	計(kg)
可燃	1,565	353	1,859	244	4,021
空き缶	10	20	5	5	40
危険物 (ガラス)	10	30	10	10	60
流木	3,940				3,940
合計					8,061

第1回

種別	梶	崎	安島	米ヶ脇	計(kg)
可燃	1,288	1,484	917	398	4,087
粗大		90	90		180
流木	2,120	2,020	2,540	700	7,380
合計					11,647

(4) 回収作業の状況



回収作業（岩脇）



回収作業（岩脇）



回収作業（岩脇の流木）



回収作業（白浜）



回収作業（根保呂）



回収作業（根保呂）



回収したゴミ



回収したゴミ

図 17 独自調査における漂着ゴミの回収状況（梶地区）



回収作業（くらの間）



回収作業（くらの間～横間の間）



回収作業（二の浜）



回収作業（二の浜）



回収作業（二の浜）



回収作業（二の浜）



回収したゴミ



回収した粗大ゴミ

図 18 独自調査における漂着ゴミの回収状況（崎地区）



回収作業（中の間）



回収作業（中の間）



回収作業（漁港内）



回収作業（漁港内）



回収作業（福良の浜）



回収作業（福良の浜）



回収したゴミ



回収したゴミ

図 19 独自調査における漂着ゴミの回収状況（安島地区）



回収作業（たのしり）



回収作業（たのしり）



回収作業（たのしり）



回収作業（やかげ）



回収作業（やかげ）



回収作業（やかげ）



回収したゴミ



回収したゴミ

図 20 独自調査における漂着ゴミの回収状況（米ヶ脇地区）

(6) ラベル表記言語による国別集計結果

独自調査のゴミを対象に、ラベルに言語が表記されているゴミについて、国別に個数を集計した。対象としたゴミは、飲料用ペットボトルとした。

飲料用ペットボトルについては、各地区ともに日本製が概ね3~4割を占め(図 21)、図 14で示した共通調査の集計結果と同様の傾向が見られた。この結果から共通調査で収集される60本程度のペットボトルからも十分に国別の情報が得られることがわかった。

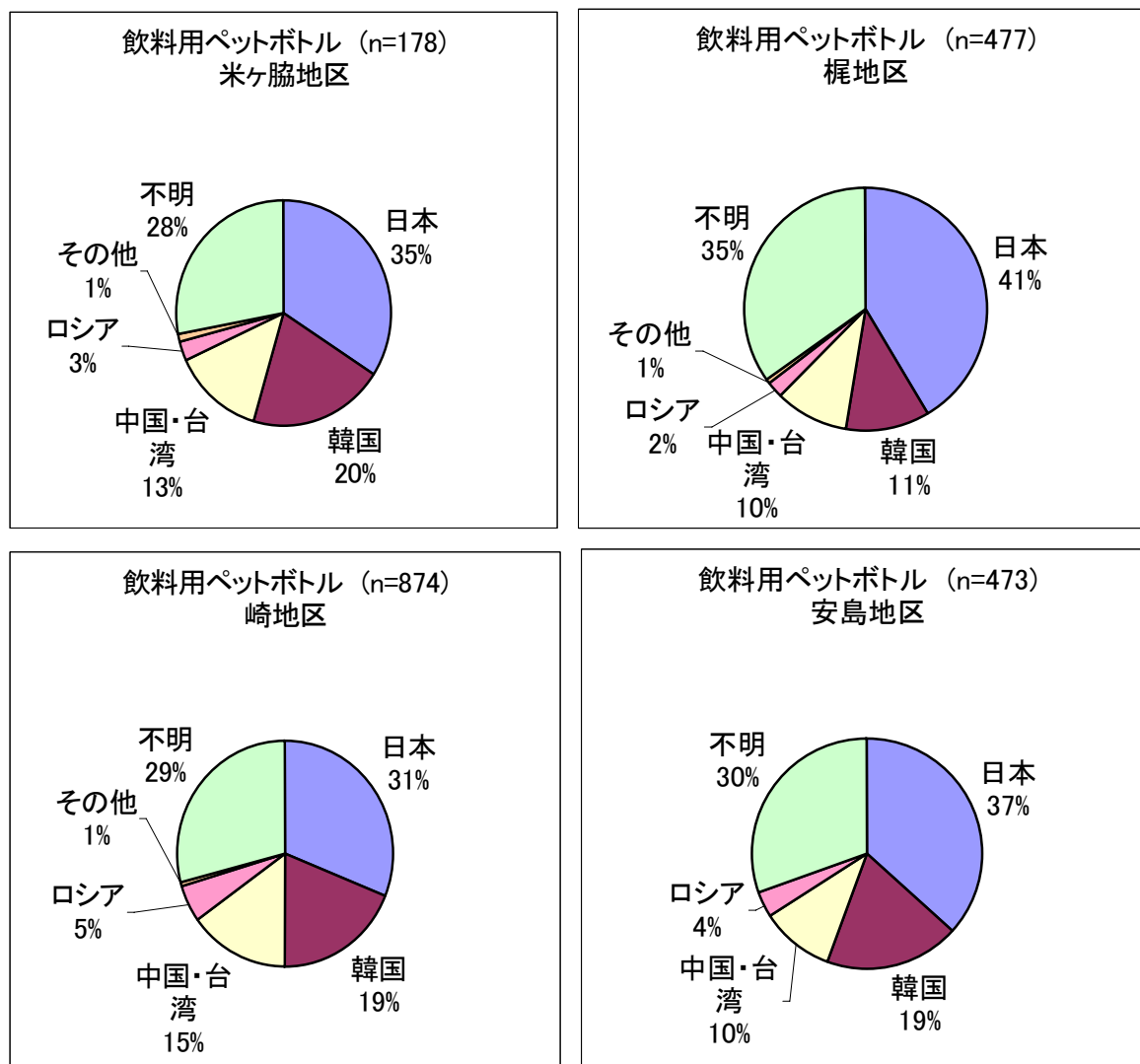


図 21 ラベル表記言語による国別集計結果(ペットボトル)

4.3 他地点との比較

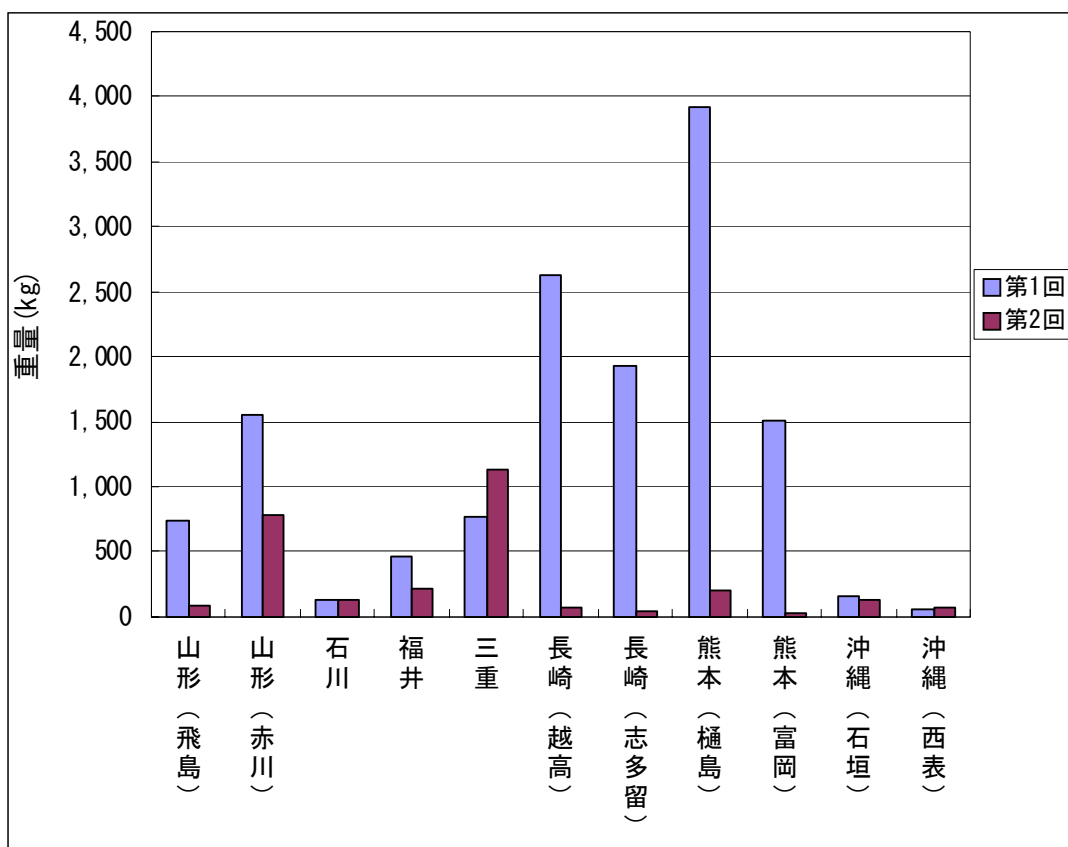
4.3.1 共通調査結果

当調査のモデル地域は7県11海岸で実施しており、どの地点においても同様の項目により分析を実施している。各海岸における第1回調査および第2回調査における漂着ゴミの回収量(kg)を図22に示す。

ほとんどの地域のゴミの量は、第1回目調査より第2回目調査のほうが少なかったが、三重県だけは、第2回目調査のほうが多くなった。

また、山形県飛島、長崎県2地域および熊本県2地域は、第1回目調査から第2回目調査の期間に漂着したゴミが、今まで堆積していたゴミの量(第1回目調査)よりはるかに少なかった。

なお、第1回目調査から第2回目調査の期間に漂着したゴミは、最も多い三重県では約230kg(1地点当たり)、次に多い山形県赤川河口部では約160kg(1地点当たり)であった。



調査面積 (m ²)	山形(飛島)	山形(赤川)	石川	福井	三重	長崎(越高)	長崎(志多留)	熊本(樋島)	熊本(富岡)	沖縄(石垣)	沖縄(西表)
第1回	560	2,460	1,718	626	433	600	346	200	840	1,300	680
第2回	560	2,460	1,718	626	433	600	346	200	840	1,350	770

図 22 各地域における共通調査で回収したゴミ量(第1、2回)

4.3.2 独自調査方法

当調査のモデル地域は7県11海岸であり、各海岸における漂着ゴミの回収方法、回収面積、回収量には地域による特色がある。各海岸における独自調査の調査方法などをまとめ第1回調査を表13に、第2回調査を表14に示す。

第1回、第2回ともに山形県赤川河口部において回収されたゴミの量が突出しているが、この大部分は流木である(回収には重機を使用)。

表13 各地域における独自調査方法と回収したゴミ量（第1回）

県名	海岸名	調査方法 ¹⁾					回収した面積 ³⁾ (㊧ク)	回収したゴミの量 (t)	回収したゴミの量 (m ³)
		重機(台日) ²⁾			船舶 (隻日)	人力 (人日)			
		ハツク納	不整地 車両	その他					
①山形県	酒田市 飛鳥西海岸	—	—	—	—	303	V	5	25 ⁵⁾
	酒田市 赤川河口部	22	23	—	—	299	II	74	370 ⁵⁾
②石川県	羽咋市 羽咋・滝海岸	1	1	4	—	165.5	I	13	67 ⁵⁾
③福井県	坂井市 東尋坊周辺	—	—	0.5	6	479	II	12	58 ⁵⁾
④三重県	鳥羽市 答志島	—	—	—	—	40	IV	1 ⁴⁾	7
⑤長崎県	対馬市 越高海岸	5	3.5	—	—	39	V	28 ⁴⁾	142
	対馬市 志多留海岸	4	4	1.5	—	44	V	35 ⁴⁾	176
⑥熊本県	上天草市 樋島海岸	2	2	—	—	193	IV	45	226 ⁵⁾
	苓北町 富岡海岸	3	3	—	—	301	III	13	64 ⁵⁾
⑦沖縄県	石垣市 石垣島	—	—	—	—	121	I	18 ⁴⁾	92
	竹富町 西表島	—	—	—	—	106	II	26 ⁴⁾	130

注1) 調査方法の欄の数字はのべ台数、のべ人数を、「—」は使用していないことを示す。

2) 重機の「その他」とは積み込みの際のユニックは除く。

3) 回収した面積(㊧ク)は以下のことを示す。

I : 100,000m²以上、 II : 100,000m²未満 20,000m²以上、 III : 20,000m²未満 10,000m²以上

IV : 10,000m²未満 3,000m²以上、 V : 3,000m²未満

4) 回収したゴミの容量に比重0.2を掛けて算出した。

5) 回収したゴミの重量に比重0.2で除して算出した。

表14 各地域における独自調査方法と回収したゴミ量（第2回）

県名	海岸名	調査方法 ¹⁾					回収した面積 ³⁾ (㊧ク)	回収したゴミの量 (t)	回収したゴミの量 (m ³)
		重機(台日) ²⁾			船舶 (隻日)	人力 (人日)			
		ハツク納	不整地 車両	その他					
①山形県	酒田市 飛鳥西海岸	—	—	—	—	190	V	5	23 ⁵⁾
	酒田市 赤川河口部	21	16	—	—	126	I	157	784 ⁵⁾
②石川県	羽咋市 羽咋・滝海岸	—	—	3	—	114	I	8	39 ⁵⁾
③福井県	坂井市 東尋坊周辺	—	—	1	—	305	II	8	41 ⁵⁾
④三重県	鳥羽市 答志島	—	—	—	—	28	IV	2 ⁴⁾	12
⑤長崎県	対馬市 越高海岸	0.5	—	—	—	24	V	4 ⁴⁾	20
	対馬市 志多留海岸	—	—	0.5	—	6.5	V	1 ⁴⁾	5
⑥熊本県	上天草市 樋島海岸	2	1	—	—	154.5	IV	処理中	処理中 ⁵⁾
	苓北町 富岡海岸	2	2	—	4	330	III	18	89 ⁵⁾
⑦沖縄県	石垣市 石垣島	—	—	—	—	180	I	37 ⁴⁾	185
	竹富町 西表島	—	—	—	—	120	II	34 ⁴⁾	171

注1) 調査方法の欄の数字はのべ台数、のべ人数を、「—」は使用していないことを示す。

2) 重機の「その他」とは積み込みの際のユニックは除く。

3) 回収した面積(㊧ク)は以下のことを示す。

I : 100,000m²以上、 II : 100,000m²未満 20,000m²以上、 III : 20,000m²未満 10,000m²以上

IV : 10,000m²未満 3,000m²以上、 V : 3,000m²未満

4) 回収したゴミの容量に比重0.2を掛けて算出した。

5) 回収したゴミの重量に比重0.2で除して算出した。

4.3.3 ラベル表記言語による国別集計結果

(1) ペットボトル

各 11 海岸における漂着ゴミのうちペットボトルのラベル表記言語によって国別に集計をしたものを図 23に示す。なお、この分類は、ラベルに表記された言語により国別に分類したのであり、必ずしもゴミの発生した国と一致しないことに留意する必要がある。

日本海側のモデル地域である福井県は、日本製と外国製（中国・韓国）の割合がほぼ同じとなり、内湾に面している三重県および熊本県樋島海岸は、ラベル表記言語が判明したもののほとんどが日本製であった。また、台湾などの諸外国に近い沖縄の 2 地域は、日本製よりも圧倒的に外国製が多かった。

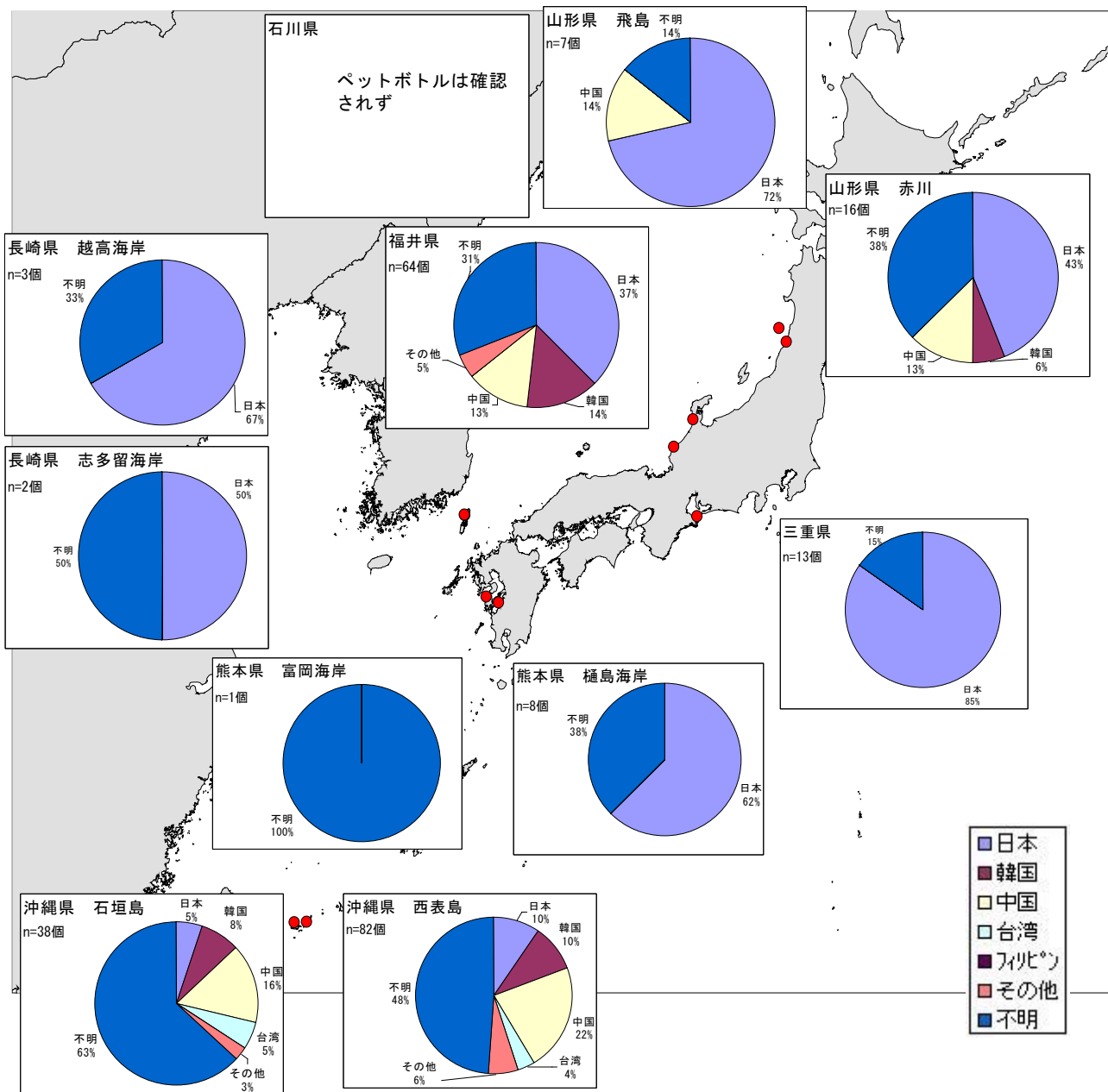


図 23 ペットボトルの国別集計結果（第 2 回）

(2)ライター

各 11 海岸における漂着ゴミのうちライターのラベル表記言語及び刻印によって国別に集計をしたものを図 24に示す。なお、この分類は、ラベルに表記および刻印された言語により国別に分類したのであり、必ずしもゴミの発生した国と一致しないことに留意する必要がある。

また、刻印による国別分類は「ライタープロジェクト ディスポーザブルライター分類マニュアル Ver.1.2」（鹿児島大学 藤枝准教授）を利用させて頂いた。

日本海側の福井県は、ペットボトルと同様に日本製と外国製（中国・韓国）の割合がほぼ同じとなったが、内湾に面している三重県は、日本製が外国製より多くなった。

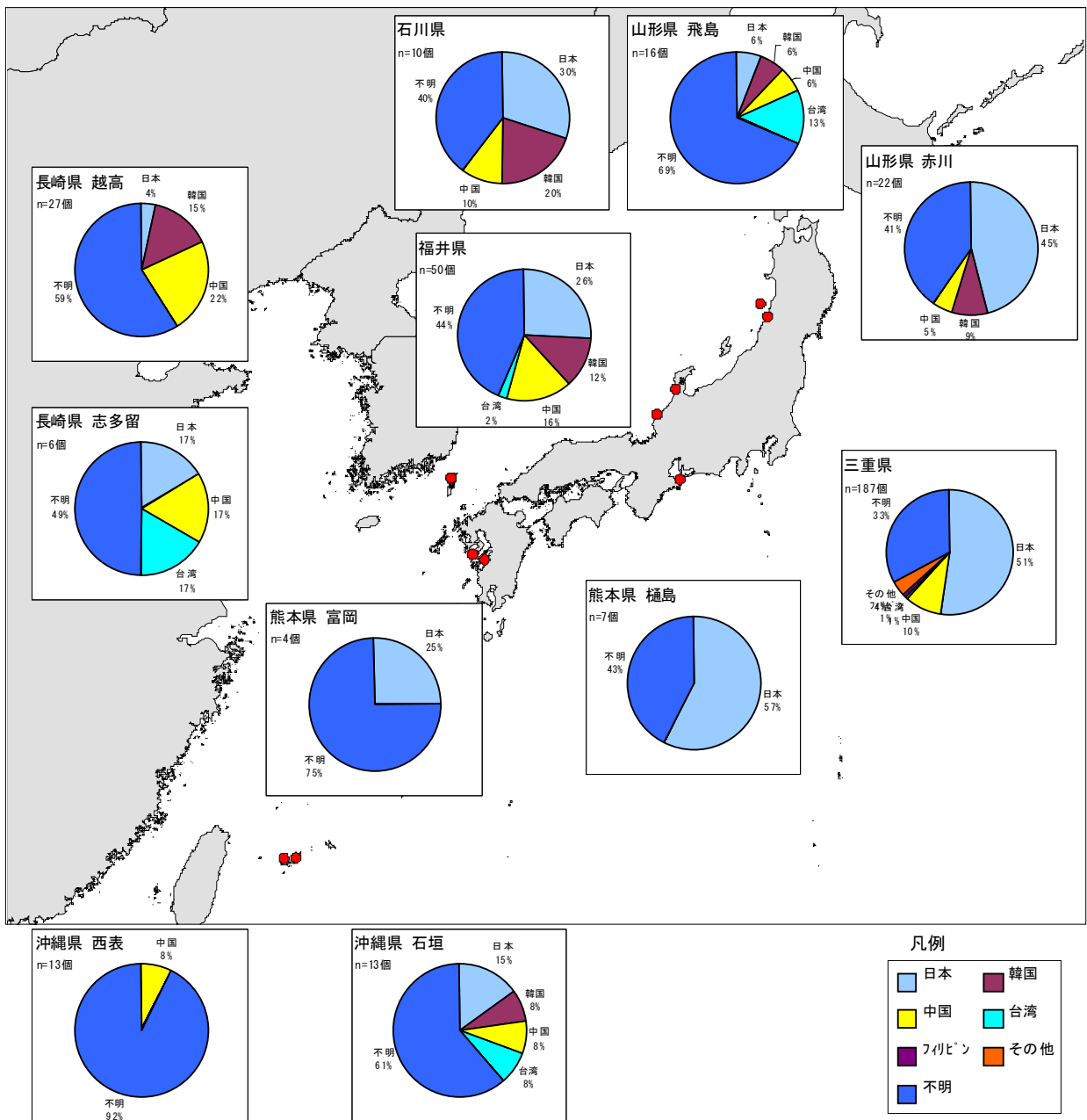


図 24 ライターの国別集計結果（第2回）（速報版）

5 次年度の調査スケジュール

5.1 第3回クリーンアップ調査について

当初の予定では、本年3月末に3回目、4月に4回目を実施する予定であったが、

- ・ 4月20日に4自治会を含む、雄島地区の祭礼がある。
- ・ 祭礼の前には清掃活動を行いたいが、3月末から4月はじめにかけて2回の清掃活動を行うことは、作業員の確保の面から現実的でない。
- ・ 海況も3月末よりは4月の方がよいであろう(例年、梶地区では4月の第一日曜日に清掃活動を実施している)。

以上の諸事情を踏まえ、各自治会と協議した結果、4月はじめの実施の方が適当であろうという結論に達し、第3回目の調査を取りやめることとした。

5.2 調査日程

来年度のクリーンアップ調査実施に際して、気候や海況および地元自治会の祭礼や行事などを考慮して、以下のような日程で調査を実施していくこととする。

第4回クリーンアップ調査：4月上旬
(4月1日～4月13日)

第5回クリーンアップ調査：6月中旬
(6月10日～6月22日)

第6回クリーンアップ調査：9月中旬
(9月9日～9月21日)